

平成二十年度春号

# 曹青かわら版

平成21年3月10日  
山口県曹洞宗青年会  
会長 大野 泰生

## 徹通義介禅師様七百回

### 「遠忌報恩写経運動の報告」

平成二十年は徹通義介禅師様の七百回「遠忌」の年でありました。山口県では、五月二十一日に新南陽ふれあいセンターで行いました「心の大学講座・檀信徒大会」で遠忌法要と、劇「禅の華」徹通義介禅師のご生涯」を行い、その「ご遺徳をお偲びしました。

徹通義介禅師様の法要は、全国各地で行われましたが、特に「ご住職をお勤めになった大本山永平寺、そしてお開きになられた金沢の大乗寺では、数ヶ月に渡る報恩法要が厳かに勤められました。

青年会では、その「ご遺徳に報いる為の報恩の「行」を行いたい」と一同「願」を発し、この度の報恩写経運動を展開し

皆様と共に写経いただきました。



お陰様で目標の倍の、四百枚余りの写経をお送り頂きました。

十月二十九日～三十一日の日程で山口県宗務所様の主催で、永平寺と大乗寺にお参りを致しました。その際、青年会を代表し会長と写経運動の担当が同道させていただき、霊骨がお祀りされている金沢の大乗寺にこの度の写経を納めさせて頂きました。

大乗寺では、住職の東隆眞老師が直接出迎えて下さり、劇が上演されたことをとても喜んで下さいました。またこのように沢山の写経をして下さった皆様によりしくお伝えして欲しいとお言葉を頂きました。

多くの皆様に報恩の写経を頂きまし

たこと、そして徹通義介禅師様・大乗寺様とのご縁を結ぶ機縁をつくる事が出来たことを喜んでおります。



宗務所の吉川所長に導師いただき、納経いたしました。その後、開山堂に奉納させていただきました。

## ◆評議員会報告◆

去る十一月七日(金)午後二時より、曹洞宗檀信徒会館研修道場に於いて、全曹青臨時評議員会が開催された。

会長の挨拶のあと、東北管区の中沢理事が議長となり、委員会・本部活動経過報告・会計中間報告が行われた。

特筆すべき内容は、法工委員会のDI-GIそうせい『声明の手引き』が完成し、申込み受付を開始したことがあげられる(既に山口曹青で三〇部注文済み、実費にて折りの際にお分けします)。

また会計報告では、賛助金の減収が特に目をひいた。今後の全曹青のありようを考える必要のある数字であることは確かである。

また次期に向けた特別委員会の報告があった。主な事項は現在の6委員会編成を4委員会編成に変更するという内容であった。現在の委員会活動の閉塞感を打破すること、先に触れた減収に關しての対策とのこと。その後、十一月に行われる千僧法要について報告があり、参加評議員全会一致で承認された。

その後、休憩をはさんで一時間超、ボランティア研修会が開催された。講師は日本NPOセンター事務局長の田尻佳史氏。「災害時における各曹青会と全曹青との協力・連携について」という演題のもと講義いただいた。

災害現場でのNPOは、公の災害対策センターとは異なる対応が望ましい。特に公的対策機関とサポートされる人々との間を繋ぐ役目がふさわしい：などなど。

経験に基づく具体的な話しからボランティアに赴く僧侶としての心構えや、役割などの再確認をすることができた。参加していた評議員の人数が三分の二

になっていたことがとても残念だった。

※山口県曹洞宗青年会の会員は、当会会員であると同時に、全国曹洞宗青年会・中国曹洞宗青年会の会員でもあります。ご承知おき下さい。なお現在当会より、角光全兄(三教区・海印寺副)が青年教化委員会に出向しています。



## ◆ 禅文化学林報告 ◆

去る十一月十七日、奈良県新公会堂(東大寺横)を会場に平成二十年度禅文化学林が開催されました。

今年度は全日本仏教青年会創立三十

周年・第十五回世界青年仏教徒連盟日本大会慶讃「奈良千僧法要」に併催され、正午より各仏教宗派から約千三百名の僧侶が集まり、新公会堂から東大寺大仏殿まで行列を行いました。

大仏殿内では普段上がることの出来ない蓮台の上を行道し、読経、声明、散華などの法要に続き、全日仏青理事長を導師に「探燈大護摩供養」が厳修されました。

法要終了後、新公会堂にて藤田一照老師を講師に迎え、伝法などについてご自身の経験を踏まえられながらご講演いただきました。

山口曹青参加者五名。



東大寺大仏殿にむかう1300名の僧侶の行列



禅文化学林講演会(講師:藤田一照老師)

## ◆戒弟のつどい◆

去る十一月二十七日、一教区・法明院様を会場に平成二十年度「戒弟のつどい」を開催。午前中には平成二十年度引請師・法明院ご住職、藤田和彦老師よりご法話をいただき、午後は布薩法要などを行いました。

今回も参加者にアンケートにお答えいただきましたのでいくつかご紹介致します。

「この度は平成十六年度のビデオを見せていただき懐かしく思い出せました。また、法明院様のご法話を拝聴し、とて

も感激し、これから役立ててゆきたいと思えます。」女性

「四年ぶりに仲間に会えてとても懐かしく感じた。今後是非こういうつどいにお願致します。」男性

「参加させていただき有難うございました。今日のお話で初心に返り、日々少しでも人に好かれるよう心がけて行こうと思えます。」女性

「毎年のことなので欠席しようかと迷っていましたが、参加して良かったと思う。いつもながら感じたことです。無意味な一日を過ごすより有意義な一時を有難く思いました。できれば難しい行事はされないで下さい。」女性



藤田和彦老師のご法話



布薩法要の様子(維那・西村和茂師)

## ◆全曹青からのお知らせ◆

「花まつりキャンペーン」がはじまりました。花の種・甘茶ティーバッグ・三仏忌の説明・菩提樹の葉脈が入って一部百三十円です。

DIGIそうせい『声明の手引』が完成。法式委員会が二年の歳月をかけて作成したDVD(二千円)の頒布が始まりました。

詳しくは全曹青広報誌「そうせい」または、HP「般若」をご覧下さい。ネット申込みも出来ます。

# ◆年末托鉢報告◆

十二月六日(土)下関托鉢

浄財88,242円 参加者十名



下関托鉢の様子。写真は往復の様子。托鉢は時間中、ずっとシーモールの前に立ち続けています。今回は特別に寒く、手足が凍りました

十二月二十三日(火) 徳山托鉢

浄財79,426円

参加者 23名 (内、徒弟六名)

徒弟参加者

一教区・宝松寺 山中 大稔くん

千広ちゃん

三教区・浄光寺 國長 光希くん

お友達 末田 雄樹くん

お友達 末田 光紀くん

四教区・龍泉寺 岩迫 祐都くん

# ◆涅槃会坐禅会◆

一月二十六日(月)6教区久屋寺様を会場に月例研修「涅槃会坐禅会」を開催しました。

前日、前前日に雪が降ったので一時は開催できないのでは…と心配しましたが、当日はいい天気にも恵まれました。

到着すると、山門から見渡す境内はよく手入れがされていました。草もなく、箒目がたち足を踏み入れることが躊躇されるほどでした。

さて、準備が整い夕方から坐禅を行い、引き続き涅槃会の出班法要を行います。



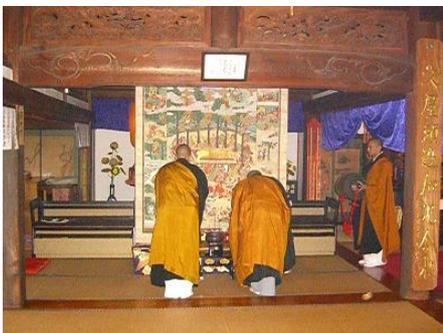
徳山托鉢の様子。徒弟さんたちもはりきっています。道行く人は、子どもたちに「頑張ってるね！」と声をかけながら布施してくれました。「来年も行きたい」と子ども達

ました。

日頃は活動が多く、こういった修行を行う機会が少ないので、みな熱心に取り組みます。特に出班法要は、普段経験したことのない配役、経験することの少ない配役で行います。平然と配役をこなす者、しきりに汗をかきながら行う者それぞれです。これは青年会ならではの光景でしょう。

その後、近くの浴場で汗を流し、夕食を食べながら懇親を深めました。新しい会員から「もっとこういった会を沢山やって欲しい」との嬉しい声も上がりました。機会作り行いたいものです。

なお、先輩方からお米等差し入れを沢山頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。



略出班の様子↑



坐禅の様子→

## ◆シャンティ学生寮と

### タイ史跡の旅◆

二月十七日から二十一日の日程でタイのパヤオ県にあるシャンティ寮を訪れました。

県内寺院や壇信徒の方々に協力を頂き、毎年二百五十万円の支援を行っています。寮生さんの様子や建物の状況視察のため卒業式に近いこの季節に寮を訪れています。

今回は三名という少ない参加人数でしたが、その分内容の濃いものとなりました。



シャンティ寮

今回は周囲を散策し、いつもとは反対側から写真を撮りました。



中国語を学ぶ子どもたち  
外国語は、先生の専門の言葉になるとのこと。「日本語を教えにきませんか？」とスカウトされました。

今回の目玉は、学校の視察です。寮生が通っている学校は、歩いて二十分程のところにあります。

中学・高校併せて七七三名の子どもたちがいるマンモス校で、先生はそれに対し四七名。朝から晩まで休み無く教えているとのこと。

教科は八つあり、数学や英語などの他、「宗教と文化」「職業技能(パソコン実習)」などがあります。

日本で言う課外クラブは無いようですが、同好会活動は盛んなようで、トロフィーがずらっと並んでいます。

ちなみに去年は中高とも進学率百%だったそうです。

教育熱心な先生に、向学心の強い子どもたちがいる事に感心をしました。

寮に戻ると夕食後、交換会があり、寮生オリジナルのゲームや、種まきの民族踊りを見せてくれました。

またモン族の「ケーン」という楽器を使った踊りを教えてくれました。手取り取り教えてくれるのですが、初めての楽器である上に慣れない動作で悪戦苦闘！構えとは反対の足で蹴ったり、楽器を足の間にはさんでみたりと難しいことこの上ありません。しかし楽しい時間を過ごすことができました。

「来年は是非セッションをしましょう」と嬉しい一言をもらいました。



交換会の様子 手に持っているのが「ケーン」。曹青代表は大庭俊洞君と末武正憲君。写真に写っている白い玉はオーブでしょうか？卒業生には記念品を渡しました。

青年会からは、寮生全員に特製Tシャツを、そして今年の卒業生に記念品を渡しました。



よくみると、痛んでいるうえ隙間が沢山あります。→



←食堂の屋根です。遠目だと分かりにくいけれども・・・

食堂の屋根がずいぶん傷んでいることに気がつきました。「大丈夫」と言われましたが少々気になります。ひどくならないうちに直せればと思います。来年は三月上旬に大人数で行ければと思います。是非ご都合下さい！

## ◆寺庭婦人セミナー開催◆

三月五日、一教区玄済寺様を会場に寺庭婦人セミナー（月例研修併催）を行

いました。（会員含め三十一名の参加でした）

開校式に引き続き、香道の研修を行います。翠風流師範吉村ひとみ先生（下関）に九十分の講義をいただきました。

歴史や香の種類についてお話下さった後、実技で「試香・本香」を行います。

「試香」は二種類のお香の名前を読み上げ、聞きます（嗅ぐ・匂うと言わず「聞く」というそうです）。「本香」では、新しい香を一つ加え、名前を伏せて聞きます。そしてその順番を当てます。

普通三割程度だそうです。なんと四割の方が「にほふ春」で、先生が驚かれています。ちなみに全部当たるのが「にほふ春」、全部外れるのが「春の嵐」、その他を「のどか」と言います。



六国（香木の種類）  
伽羅・羅国・真那  
蛮・真那賀・佐曾  
羅・寸門多羅  
五味（分類の基）  
辛・甘・酸・苦・鹹

↑講義の様子。  
写真は吉村先生

午後からは「和歌にみる日本の心」と題して、藏重恵昭老師（一教区玄済寺住職）からお話し頂きました。十五遍の和歌を通して、国を大事にする心をお話し頂きました。

また、引き続き、玉川賢道老師（十一教区訂心寺住職）にお焼香についてお話し頂きました。「思いを込めて焚く」事が大事だということを改めて教えて頂きました。

## ◆今後の行事案内等◆

平成二十一年度総会

四月二十七日（月）周南市「青山」

午後四時～ 総会

午後六時～ 初老祝賀会

詳細は別紙にて

山口曹青ホームページ

徹通義介禅師様の記念事業として現在作成を勧めています。現在仮公開中。年度内に本公開できればと考えています。完成をお楽しみに。（各寺院の紹介については随時受け付けています。お問い合わせ下さい）

問い合わせ先 山口県曹洞宗青年会事務局  
下関市長府松小田中町九一四福昌寺内  
電話 FAX 〇八三一―二四五―〇〇五四

# 10年後の寺院をデザインする講座

薄井秀夫氏が「寺院デザイン通信」を創刊されました。ちょうどHPについての記事が出ていましたので、転載をさせていただきます(許可済み)。

薄井秀夫氏

寺院運営コンサルタント。

鎌倉新書の月刊誌『仏事』などを通して、教化布教や寺院運営に関する取材を長年続ける。

なお購読希望の方は、電話かHPより株式会社寺院デザインに直接お申し込み下さい。(購読無料)

Tel:03-6658-4243 Fax:03-6658-4249

URL <http://www.jiin-design.co.jp/>

## 第1回 本当に効果のある

### ホームページのつくりかた

#### ■遅れている仏教界のインターネット活用■

株式会社寺院デザインがスタートして一年。お寺がどのような悩みを抱えているかは、ある程度、理解していたつもりでしたが、いただいた問い合わせの中には、予想していたものとけっこう違った悩みというものも少なくありませんでした。

この一年に依頼された仕事で、意外だったのは、ホームページに関するコンサルティングの依頼が多かったことです。しかもそのかなりの割合が、既にホームページを持っていて、それをリニューアルさせるためのコンサルティングでした。

つまりホームページをつくってみたのはいいけれど、反応は無いし、アクセスも少なく、「これでいいのか？」という疑問を持ち続けていたお寺からの問い合わせということです。

全国でホームページを持っているお寺は、1万カ寺は超えていると思いますが、そのかなりの割合がこうした問いあわせをしてきたお寺と同じ状況だと思いません。

はっきり言って伝統仏教界はインターネットに関して、一般社会に比べ10年は遅れています。

かつてインターネットは「ゴミの山」だと言われた時代があります。たくさんの企業がその頃、この新しいツールにとびついて、明確なビジョンも無いまま、むやみにホームページをつくっていました。しかし当初は、インターネットの特質を生かすことができませんでした。だから、ほとんど有効利用できない時代が続いていました(アンダーグラウンドの情報メディアとしては、実に有効利用されていましたが)。

しかし、特にここ5,6年のことですが、インターネットの特質が理解されてくるにつれて、上手に事業に生かす企業が急増しています。

ふりかえってお寺のホームページはどうかと見回してみると、まだまだ10年前の状況にとどまっているというのが現実のようです。

そこで、この「寺院デザイン講座」では、「お寺のホームページ」に関する講座を何回か続けてみようと思います。現実には、ホームページに関する悩みを抱えているお寺は少なくないと思いますし、悩みとまでいなくても、「これでいいのか？」という疑問を持っているお寺はかなり多いはずです。

#### ■誰を対象にホームページをつくるのか？■

今回のテーマは、「いったい誰を対象にホームページをつくるのか？」ということです。

ホームページを既に運営している方に質問です。「ホームページを作成する際、誰を対象にするか考えましたか？ それはいったい、どんな人たちですか？」

答はお寺によって異なると思います。下の図のように、お寺のホームページを見る可能性のある人は、ちょっと挙げてみただけでも、こんなにあります。

檀信徒

仏教を学びたい人

祈祷をするお寺を探している人

お寺の行事(イベント含む)の参加者

お墓の購入希望者

永代供養墓の購入希望者  
葬儀をしてくれるお寺を探している人  
お寺の歴史などに興味を持っている人

これを見るとわかるように、実にいろんな人がホームページにアクセスする可能性があります。

「このほとんどが、うちのホームページの対象だ」と答えるお寺もあるかもしれませんが、それは「ダメな答え」の代表例です。「全部」というのは、何もないのと一緒です。「誰を対象にするか」は、その対象に対して何をしたいか、ということにも繋がります。対象を明確化しないと、どっちつかずのホームページになってしまいます。

おそらく、答として多いのは「檀信徒」でしょう。

ところがこの「檀信徒」という対象は、インターネットの特質を考えると、実に扱いにくい相手なのです。

お寺のホームページを考えた場合、インターネットの特質として次の3つを考えることが大切です。

(1) ホームページの基本は受け身(アクセスしてもらうのを待つ)

(2) 情報は随時更新できる

(3) 不特定多数の人と直接結びつくことができる

まず(1)ですが、受け身ということは、檀信徒が自ら見ようとしないと菩提寺のホームページを見ることは無いということです。檀信徒はどんな時に菩提寺のホームページを見ようとするでしょうか。ホームページが出来たことをお知らせすれば、その時は1回くらい見るでしょう。しかしその後は、しばらく見ることはありません。1年に1回でも、数年に1回でも、必要な時に見てもらえればいいのですが、ヘタをすれば、それすら危ういのが現実でしょう。その時には、ホームページの存在すら忘れてしまっているでしょう。

そこで、(2)の情報を更新することが、重要になってきます。常に情報を更新することが、定期的にアクセスしてもらうために重要なことだからです。しかしこれも、簡単なことではありません。檀信徒が興味を持つような情報を常に出し続けることはたいへんなことです。

(3)の不特定多数の人と直接結びつくことができる、というのは、インターネットの最大のメリットですが、

残念なことに檀信徒は不特定多数ではありません。いつも決まっている人たちです。

## ■お寺にホームページは必要か? ■

実は、こうしたことをトータルで考えると、ホームページよりも寺報などを郵送したほうがまし、ということになりかねません。

寺報は、受け身のメディアではなく、能動的なツールです。送付することで存在感をアピールすることができます。情報を作り続けることは大変ですが、寺報なら、数ヶ月に一回、情報を出せば済みます。さらに檀信徒の数はある程度固定されているので、その人たちの住所に寺報を郵送すれば済みます。

それじゃあ、お寺にホームページは必要無いのでしょうか?

実は私も、「もしかしたらお寺というものは、インターネットを生かしていく活動体なんじゃないか?」と思っていた時期があります。「お寺がホームページをつくっても、あまり意味が無いのではないかと」

しかし、いくつかのお寺のコンサルティングをしてわかったことは、やはりホームページはお寺にとっても優れた道具だということです。道具は使い方次第で、有効に活用することが出来ます。

もちろん、工夫をこらして積極的に働きかけるようなホームページでなく、「どんなお寺なのかな?」「お寺の行き方は、どうだったかな?」ということがわかるだけでも、十分に意味はあります。しかしそれだけ、つまりお寺の由緒、行事予定、境内の写真といった基本情報だけならば、3~4ページで済みますし、あまりお金をかける必要はありません。その意味では、間違った方向に無駄なお金をかけすぎているホームページが多いのも事実です。

やはり、せっかくお金をかけるのなら、役に立つホームページにしたいものです。それでは、役に立つホームページは、どうしてつくればいいのでしょうか? 次号以降で詳しく考えてみましょう。

曹青で作成しているホームページは、**特定・不特定多数の方に、県内寺院について最低限の必要なことをお知らせすることを目的につくっています。お寺のHPを開設するほどではない・と思われる方、特にご利用頂ければと思います。**